

2016年10月1日

第269号

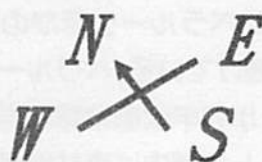
藤沢

エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議
(略称) 藤沢エコネット

主な記事

- ・ とうなる t p p で食の安全
- ・ 放射能とチェルノブイリ原発 ・ 海の中から
- ・ 原発事故に伴う保養実態調査報告書
- ・ 気象情報ジェット気流にまつわる話 5



<http://econet2015.sakura.ne.jp>

事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎ / F A X 0466-87-4922

川崎健先生を悼む

世界的な海洋学者で、「レジームシフト理論」の提唱者であり、藤沢エコネット顧問であった川崎健東北大学名誉教授が9月12日に逝去されました。

先生は、2007年6月の「第21回太平洋学術会議」において、海洋生物学分野で極めて権威ある国際賞である「畑井新喜司メダル」を受賞。受賞対象の研究課題は「レジーム・シフトと太平洋における多獲性浮魚類の資源変動メカニズムの研究」です。現在ではレジーム・シフト理論は海洋生態系のバイオマス変動の基本原則であることが世界の研究者の共通認識となり、川崎先生は“Father of Regime Shift”と敬愛を込めて呼ばれています。

先生の理論は、大気-海洋-海洋生態系は、ひとつのシステムとして、全地球的スケール、数十年スケールで変動している、このシステムの基本構造（レジーム）が不連続的に転換（シフト）するというもので、水産資源学、海洋生態学だけでなく、気候学や海洋物理学までも含む、「レジーム・シフト学」と呼ぶべき、地球規模での気候システムと海洋生態系との連動変化機構を究明する、ひとつの新しい学問分野を切り拓きました。黒潮域とペルー海域（フンボルト海流）では、1970年代半ばにマイワシからカタクチイワシへの魚種交替が生じていたことなどが明らかになりました。たくさんの著書もあり「イワシと気候変動」（岩波新書）は読みやすく誰でも理解できます。

川崎先生の薦めで安定同位体を用いたカタクチイワシ、マイワシの研究を始め、この3月に「炭素・窒素安定同位体分析によるカタクチイワシとマイワシの栄養段階に関する研究」で生物資源科学博士を取得しました。ひとかたならぬお世話になりました。最後の弟子となってしまいました。

また、藤沢エコネットの会員・顧問として何回もの学習会の講師を務め、エコネットニュース執筆も度々引き受けてくださいました。さらに、行動する科学者として、全国各地からも専門家としての助言に応じました。

地球温暖化をストップさせるには、単なるもの知りになるのではなく、行動する市民になることを求められ、市民発電所を作るきっかけを与えてくださいました。市内鵠沼に在住で「名誉市民」にあたる功績がありました。

先生の遺志を受け継ぎ、発展させるために力を尽くすことを誓います。先生、安らかに眠りください。（宮地俊作）



つよし

川崎 健 先生

放射能とチェルノブイリ原発

松本市長である菅谷昭さんは、チェルノブイリ原発事故後汚染地域であるベラルーシほかの国へ医療チームとして支援活動を続けている。ベラルーシ共和国の最高勲章も授与された。小児甲状腺検診に当たった経験を話された。原発の30km圏内は森林地帯でもあり除染もされず今も立ち入り禁止となっている。

ベラルーシ、ゴメリ州の小児甲状腺がんは1986年に2人だったが91年には56人、96年はピークで90、その後2000年には24と減少してはいる。

91年に退職金を当てて診察や超音波の機器を日本から持っていき5年間ベラルーシで診察した。その後も何度も現地入りし、そこでは子どもの甲状腺がん治療に専念し現地の医師に手術の技術を教えた。

市長としての公務の合間に2016年7月に訪問したが30年たった今も立ち入り禁止、セシウムなどは0.4マイクロシーベルトと高く、草地や畑はもっと高い。誰も住んでいない「埋葬の村」というものもあるそうだ。

現在、ベラルーシの状況は、健康被害では免疫力低下、貧血、未熟児、早産、先天性異常などがあり、ゴメリ州ではアレルギー疾患や胎児異常の増加が報告されている。国による支援は、汚染地居住の子どもには年2回の定期検診を実施（大人は年1回）、子どもたちには非汚染地での保養を年に1か月実施している。費用は全て国による負担だという。

このたび16歳で講師の手術を受けた人との再会で子どもを2人育て、前向きに生活している画像も紹介された。

福島ではたった5年しか経っていない、風化してはいけけない。甲状腺の検査をもっとすべき、がん以外の疾患にも対応して放射能被害に関心を持ち、子どもの未来を守るために困難に立ち向かうべき時であると述べられた。松本市では保養受け入れを市として実施、支援している。

たくさんの報告を載せたいが紙面の関係でほんの1部分しか載せられず残念。

この日は「生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコース」の主催で京浜共同劇団による「空の村号」も上演。またお笑いの吉本にも所属の芸人「おしどりマコ & ケン」による東電福島原発の現状や事故当時の記者会見談をおもしろくしゃべった。（日比遙）

「どうなる TPP でくらし食の安全」県母親大会 分科会から～港湾労組委員長:奥村芳明さん

現在日本の食物自給率は39%。遺伝子組み替え食品が投入され18年。大豆の自給率は7%なのに、33円の国産大豆豆腐が可能なわけは5%未満国産表示。ラットの寿命2年。免疫性低下しても食べてみて分からない、死んでみないと判らない。

農業の数、日本800/2200アメリカ。指定食品添加物の数、日本413/419アメリカ。カナダはTPPを断った。わらびは福島・新潟・長野などの土産物として沢山売られているが95%が輸入。梅干し80%、生姜90%、ぜんまい90%が輸入。カワハギの輸入元は、熱海駅前の土産物屋。鮭はチリ稚魚、タイで養殖。輸入食品は殆ど現物検査していません。書類検査で不備の見つかった2.6%のみ現物検査。ミニマムアクセスで22.3%は今も入っている。

日本の酪農農家は子ども産む為にホルモン剤使ってるが、肉や牛乳の為には使っていない。オーストラリアの牛肉はヨーロッパ向けにはホルモン剤使っていないが日本向けにはホルモン剤使っている物もある。

検疫所は全国に31か所、出張所を含め103か所。輸入農産物の危険性を水際で止める為には検疫官5000人が必要だが、408人しかいない。この中から、オリンピックのジカ熱対策にも配置される。2.6%現物検査して不合格の物が見つかったも、すでに消費済みも。天津港から横浜港まで船便2週間。アメリカからは4~6週間。

日本人は1日11g、1年4kg、一生では250kg小錦位の食品添加物をとっている。カネミ油症では最初ネコが狂い死し、一番害の出なかったのは妊産婦で宝子と呼ばれた。奇形児の出生数、昭和48年1157人。今は、胎児診断が発達し数字に表れない。農業や添加物の害は、自分に出ないで子や孫にでる。青酸ガスは、猛毒性あるが揮発しやすく、水に溶けやすいのでバナナを漬ける。バナナの両端を除いて食べても、皮から浸透しているので意味がない。

20代は200~300万円の所得では果物食べる習慣がない人が多い。後継者問題も深刻で日本の農家も正念場。湘南地区もどんどん農地が減っていく中、安全な農産物を求める消費者と生産者の連携が大切。

（野田美雪）



「海の中から地球が見える」

藤沢母親大会の記念講演で武本匡弘氏の楽しいトークと画像を観た。海は広いな大きなあゝ打ち寄せる湘南の海音に心を穏やかにしていた若い頃の思い出…
3.11 東日本大震災の時、黒い津波が海岸沿いの頑丈な防潮堤を破壊し乗り越え、住宅地を飲み込んでいくさまをテレビに映し出された記憶もまだ新しい。

心わくわくさせながら武本氏の海の中の写真に見入った。たくさんの魚の泳ぐ相模湾、寒々とした瀬戸内海、珊瑚の死滅した沖縄の海底と映像は写されていく。穏やかな島々の浮かぶ瀬戸内海は一番汚染されているという。北海道最北端の流氷を海の中から仰ぎみると青空に浮かぶ白い雲、美しい。この流氷から珊瑚礁まで見られる海を持つのは世界中で日本だけ、その日本の海が泣いていると氏は話す。相模湾の海に現れた大きな越前くらは、どうやって相模湾にやってきたのか？ 次に積丹半島の海、ウニ井と積丹ブルーを目玉とする観光地でもある海底には、岩場にウニがまばら？なぜ？泊原発により海水が温められ生物が生息できなくなったという。原発は冷却し続けなければならず、海水温を7～8度上げるそうだが、日本中の原発が再稼動したら？と想像すると背筋がゾーっと。「海は広いな」などといえない状況が海の中に起きていることを知った。

原発と海との関連を示す映像。11月から着工した浜岡原発を津波から守るという防波壁は巾2m、高さ海拔20m、全長1.6km。まるで屏風？ 3.11 東北大震災のときの世界一を誇る釜石や宮古市田老町防波堤は津波の力で無残にもボロボロに…。津波の破壊力を知る科学者なら違う方向に考えられないものか？

武本氏は海の中からの視点で核、平和をテーマに取材、撮影をしているという。マーシャル諸島、ツバル諸島など南太平洋に生きる人々への暖かい視点と大国のおこしてきた水爆実験により住む人々の健康破壊の現実も見せてくれた。最後に海に泳ぐイルカまでも軍事訓練の対象にされている写真には驚愕！。海の中、生物に関心を持ち心新たにした講演であった。

「同じ志をもって海の中から平和について環境破壊を食い止める声を反対と対案を持ち広く広めていくことが大切である。」と結んだ武本氏の言葉が心に残った。ありがとうございました。(高橋)

原発事故に伴う保養実態調査報告書

2011年3月福島原発事故以後、放射能汚染を避け、一時的に移動する「保養」活動がチェルノブイリ事故後のウクライナやベラルーシを参考に日本で始まった。その実態調査をリフレッシュサポートと311受入全国協議会保養促進ワーキンググループが実施、報告書が7月に出版された。

2014年11月から1年間対象の全国調査で、保養は29都道府県で実施され、保養団体数は234団体以上、保養参加者数は約15000人以上と推測される。

▲保養団体は69%が任意団体。▲保養場所は北海道、関西が多い。▲保養団体のスタッフは1団体当たり5-10人が最も多く ▲有給スタッフがいない団体が69%。▲有給スタッフを持つ団体の内83%が他の事業を行っている。ここから保養は基本的にボランティアで支えられていることが分かる。▲40代から50代の女性が保養運営スタッフの多くを占める。▲これに対し、チェルノブイリ原発事故のウクライナでは、保養は国家主導、専門家や教育大学出身者が仕事として関わっている。▲収入は71%が寄付金で最も多く、助成金が15%、参加者の参加費が4%。ここから保養活動は寄付金に大きく頼った活動であり、多くの団体で寄付金収入は年々減少の傾向にある。▲支出は参加者の交通費が40%と一番大きな割合を占めた。▲プログラム型

(全行程を企画した保養)の1企画あたりの平均参加者は27.2人、平均滞在日数は5.3日である。企画への応募希望者の内7割程度しか保養に行けていない。

ウクライナでは「保養庁」があり、全国でどんな保養が必要かニーズ調査を行い、それをもとに計画を立て、各地域に割り当て、マッチングをおこなっている。▲保養参加者の条件は保護者同伴が最も多く、共働きやシングルマザーは保養に行きにくい現状である。▲参加者の居住地は福島県中通りが最も多く、次いで浜通り。▲一人当たりの受け入れ費用は1企画あたり平均70,391円(内40%が交通費)。

主要な課題は「活動資金不足」次に「原発事故や支援に対する関心の低下」、そして「スタッフの人数不足」。改善希望点は「国や自治体で保養を行ってほしい」が突出した。

原発事故から5年を経て、保養活動に対する行政の支援の必要性が改めて問われている。(青柳節子)

ジェット気流発見にまつわる話し (シリーズ5. 館野高層気象台の設立準備)

大石の時代に、若い研究者による海外留学は、西洋の科学を日本へ移植する使命ともいうべき役割があった。このために、明治時代を通して約600名の日本人が海外に留学した。当初は、留学先がフランスとドイツだったが、20世紀の初めころになるとアメリカが加わった。

大石の履歴をみると、第1次世界大戦の始まりが高層気象観測所設立計画の一部に影響したことが想像できる。つまり、大石は1913年の始めにドイツ・リンデンベルグ高層気象台の留学から帰国したが、この理由はヨーロッパの情勢が不安定になったことが考えられ、1914年8月になると日本はドイツに宣戦布告した。大石は大戦後の1919年10月にアメリカを訪れ、高層気象観測のための機器類を調達した。彼はアメリカ滞在中に、インディアナ州のRoyal Centerとノースダコタ州のEllendaleの高層気象観測所を訪問している。

大石は、アメリカへの出発の前に、高層気象観測に適した土地を見つけるために東京の外縁地帯を巡検した。東京の北東方面へ旅行した際に、太平洋に隣接した障害物の無いほぼ12万坪ほどの広大な低平地を見つけた。富士山はこの地の南東160°で、気象要素の一つである視程の観測には都合が良さそうだった。

中央気象台は1919年8月にこの地、館野(茨城県つくば市)を観測施設の用地として確保した。館野高層気象台の主要な建物が1920年に完成した。大石は、観測組織の長となることが約束されていた。思えば、1910年(明治43年)に鹿島灘沖で多数の犠牲者をだした海難事故を発端として高層気象観測の重要性が認識されて以来、10年が経過していた。(つづく)

林 陽生(NPO 法人シティ・ウォッチ・スクエア理事長)

放射能測定値

(HORIBA Radi) 9月中旬に測定(地上50cm)

小出川そばの草むら	0.024 μ Sv/h
鶴沼海岸駅前駐輪場入口	0.059 μ Sv/h
鶴沼海岸駅前道路	0.047 μ Sv/h

EGONET INFORMATION

ドイツのエココミュニティデザイン最前線

日本大学公開講座

講師 エクハルト・ハーン博士(ドルトムント大学)
コーディネーター 糸長浩司教授 通訳 片山弘子
とき 10月26日(水) 13:00-14:30 参加費 無料
ところ 日大生物資源科学部2号館211教室
主催: 生物環境工学科建築・地域共生デザイン研究室



「海から生まれたいのち

～血液・骨・人体とリズム」講演会

講師 後藤仁敏氏(鶴見大名誉教授)

11月5日(土) 14:00-

藤沢市民会館第1展示ホール 参加費500円

主催 湘南のなぎさを守る藤沢市民の会

協賛 藤沢エコネット・湘南学習会議

ふじさわ環境フェア2016 11/12(土)

9:50-15:30 藤沢市民会館にて

環境活動展示 クイズラリー ワークショップ

体験コーナー 飲食ブースなどたくさん

市民発電所設立総会 10/10(月初)

10:00-12:00 市民活動推進センター

地産地消エネルギー 藤沢市民の会 090-6188-0452

藤沢エコネットから

◆見学学習会「放射性焼却灰のゆくえ」

10月17日(月) 10:00-12:00

辻堂浄化センター現地集合 チラシ参照

◆会員募集=年会費・購読料→2000円

ゆうちょ銀行(9800) 店番(029)

当座預金 0046501737702

◆事務局会議 10月3日(月) 13:30~

市民活動推進センター

＜編集後記＞馬肥ゆる秋。文化の秋。10月末はみんなの消費生活展、11月は環境フェアと生活・環境を見つめ直すイベントが続く。市は「藤沢市環境基本計画」「藤沢市地球温暖化対策実行計画」の見直し素案へのパブリックコメントを10/18から11/16まで実施する。行政の施策をチェックしないと、豊洲新市場の盛り土問題のような事が起こり得る。他山の石にしたい。(A)